

凡例

- : 計画地
- : 市界
- : 調査範囲
- : 玉川上水緑道・野火止用水緑道
隣接樹林地



1:5,000

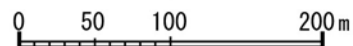


図 8.7-1
生物・生態系調査範囲

(3) 調査結果

ア 生物

(ア) 陸上動物の状況

a 既存資料調査

平成 25～30 年に実施された小平市における保存樹林内で確認された注目すべき種として、鳥類ではエナガ及びヤマガラ、爬虫類ではニホントカゲが確認されている。

また、小平市が平成 24～28 年度に実施した希少猛禽類調査によると、計画地及びその周辺では希少猛禽類の繁殖が確認されていない。また、捕食行動が確認された場所のほとんどが計画地から離れた営巣地周辺に集中しており、計画地周辺における捕食行動の確認状況は、隣接樹林地の林縁部や耕作地周辺において、調査期間中に数例あった。

b 現地調査

(a) 哺乳類

現地調査結果では、2 目 2 科 2 種の哺乳類を確認した。

注目される種を選定した結果、該当する種はなかった。

(b) 鳥類

現地調査では、9 目 21 科 34 種の鳥類を確認した。

注目される種を選定した結果、5 目 10 科 12 種が該当した。注目される種の確認状況は表 8.7-3 示すとおりである。

表 8.7-3 注目される種（鳥類）の確認状況

No.	種名	確認位置			
		計画地内		計画地外	
		箇所数	個体数	箇所数	個体数
1	ヒメアマツバメ	1	2	0	0
2	ツミ	0	0	1	2
3	オオタカ	0	0	1	1
4	カワセミ	0	0	1	1
5	アカゲラ	0	0	1	1
6	アオゲラ	1	2	5	5
7	サンショウクイ	0	0	1	1
8	モズ	0	0	3	3
9	ヤマガラ	0	0	17	18
10	ウグイス	0	0	1	1
11	エナガ	0	0	4	34
12	イカル	0	0	2	9

注1) 確認位置において、「箇所数」は確認した箇所数、「個体数」は確認した例数を示す。

(c) 爬虫類及び両生類

i 確認状況

現地調査では、1綱2目4科4種の爬虫類を確認した。

注目される種を選定した結果、1目3科3種が該当した。注目される種の確認状況は表 8.7-4 に示すとおりである。

表 8.7-4 注目される種（爬虫類及び両生類）の確認状況

No.	種名	確認位置			
		計画地内		計画地外	
		箇所数	個体数	箇所数	個体数
1	ニホンヤモリ	2	2	2	2
2	ヒガシニホントカゲ	3	5	17	19
3	ニホンカナヘビ	2	2	6	6

注1) 確認位置において、「箇所数」は確認した箇所数、「個体数」は確認した個体数を示す。

(d) 昆虫類

i 確認状況

現地調査では、14目170科541種の昆虫類を確認した。

注目される種を選定した結果、6目10科12種が該当した。注目される種の確認状況は表 8.7-5 に示すとおりである。

表 8.7-5 注目される種（昆虫類）の確認状況

No.	種名	確認位置			
		計画地内		計画地外	
		箇所数	個体数	箇所数	個体数
1	クマスズムシ	0	0	1	1
2	ショウリョウバッタモドキ	0	0	4	10
3	ヒグラシ	1	2	1	10
4	ヒゲブトハナムグリ	1	1	1	1
5	シラホシハナムグリ	0	0	3	5
6	クロカナブン	0	0	2	3
7	ノコギリカミキリ	0	0	1	1
8	ホタルカミキリ	0	0	1	1
9	トゲアリ	0	0	3	12
10	モンスズメバチ	0	0	5	14
11	ミドリバエ	0	0	1	1
12	コシロシタバ	1	1	3	5

注1) 確認位置において、「箇所数」は確認した箇所数、「個体数」は確認した個体数を示す。

(イ) 生息（育）環境

a 既存資料調査

(a) 地形・地質

計画地周辺の地形・地質の状況は、「8.5 地盤 8.5.1 現況調査 (3) 調査結果 ア 地盤の状況 (ア) 地形・地質」(p.108~109 参照)に示したとおりである。

(b) 地下水

計画地周辺の地下水の状況は、「8.5 地盤 8.5.1 現況調査 (3) 調査結果 イ 地下水の状況 (ア) 既存資料調査」(p.110 参照)に示したとおりである。

(c) 気象

計画地周辺の気象の状況は、「7.2 (参考) 地域の概況 7.3.1 一般項目 気象」(p.57 参照)に示したとおりである。

(d) 地域社会とのつながり

計画地周辺の地域社会とのつながりの状況は、計画地の南側に玉川上水緑道、北側に野火止用水緑道があり、ウォーキングコース等になっている。

(e) 植物群落区分

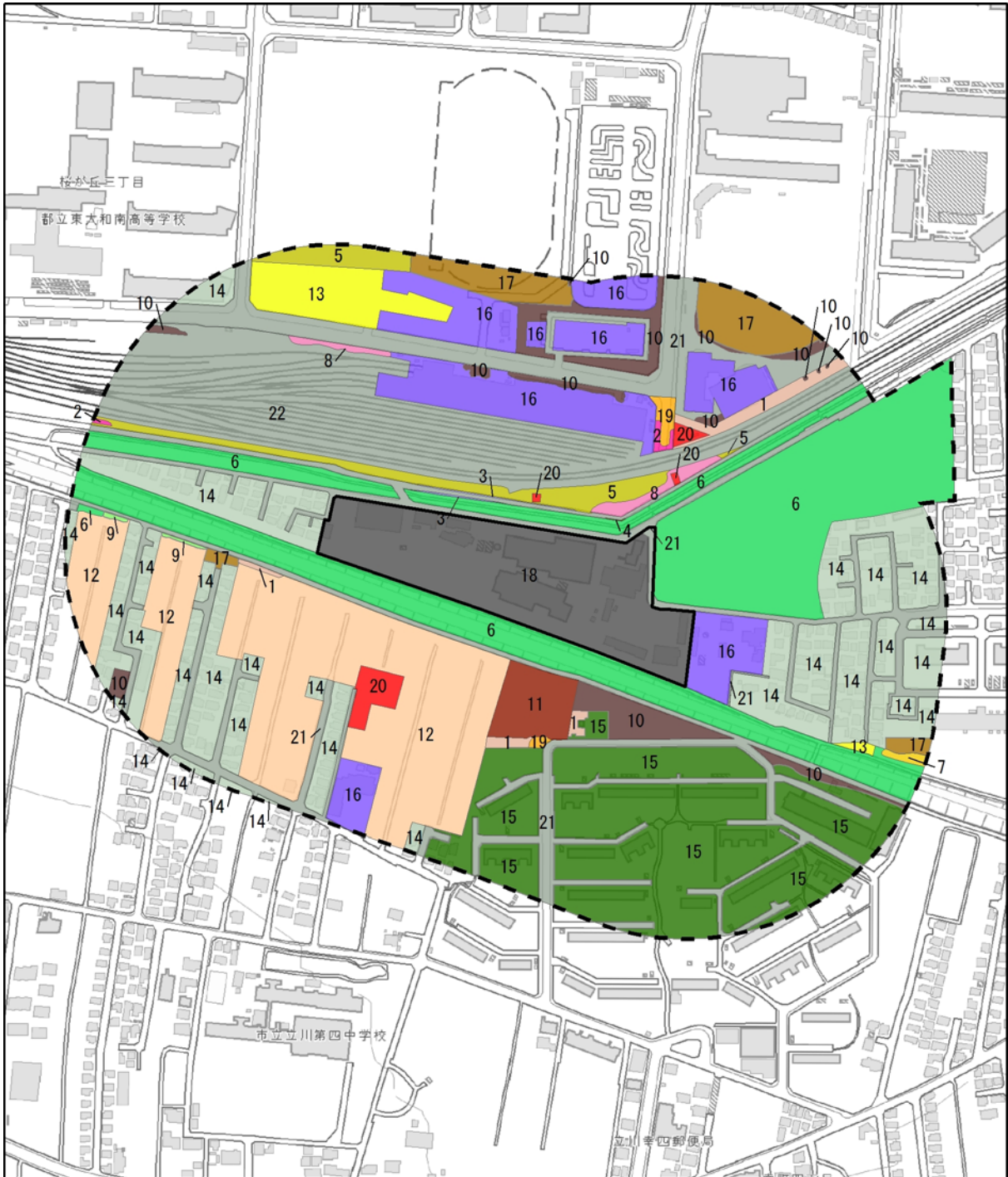
計画地周辺の現在植生は、市街地及び緑の多い住宅地が広がっている。また、計画地はクヌギ-コナラ群集及び残存・植栽樹群をもった公園に囲まれている。

b 現地調査

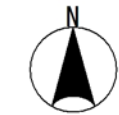
(a) 植物群落区分

計画地及びその周辺の植物群落は、図 8.7-2 に示すとおりである。

調査範囲内では、コナラ群落（面積 4.779ha、割合 15.81%）が最も広い面積を占めており、次いで、住宅地（面積 3.730ha、割合 12.34%）、道路（面積 3.671ha、割合 12.15%）であった。



凡例	
	計画地
	調査範囲
	1, メシバ群落
	2, コセンダングサ群落
	3, コズメガヤ群落
	4, アシボソ群落
	5, ススキ群落
	6, コナラ群落
	7, アズマネザサ群落
	8, クズ群落
	9, ヒノキ植林
	10, 植栽地
	11, 果樹園
	12, 畑(畑地雑草群落)
	13, 人工草地
	14, 住宅地
	15, 緑の多い住宅地
	16, 施設
	17, 公園・グラウンド
	18, 工場
	19, 人工裸地
	20, 構造物
	21, 道路
	22, 鉄道



1:5,000

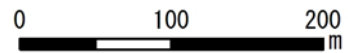


図 8.7-2
計画地及びその周辺の植物
群落

(b) 植物群落の構造的特徴

調査範囲内で確認された植物群落及び土地利用を動植物の生息（育）環境の観点から、構造的に区分し、それらの特徴を整理した。その結果は、表 8.7-6 に示すとおりである。

表 8.7-6 生息（育）環境としての特徴

区分		植生・土地利用	面積 (ha)	生息（育）環境としての特徴
樹林地	落葉広葉樹林	コナラ群落	4.779	樹林性の動植物の生息（育）環境となっている。隣接樹林地は、草本層～高木層が形成されており、哺乳類や鳥類、爬虫類、昆虫類の繁殖、採餌、休息、避難等の場所として機能していると考えられる。緑道は、人の通行による地表面の踏み固め等があることから林床植生が形成されにくいと考えられるが、高木層が帯状に形成されていることから、鳥類や爬虫類、昆虫類の採餌、休息、移動経路等として機能していると考えられる。
	植林地	ヒノキ植林	0.015	樹林性の動植物の生息（育）環境となっている可能性があるが、人為的な利用状況に応じて、陸上植物の生育状況や陸上動物の利用状況が異なると考えられる。
草地等	高茎草地	ススキ群落、アズマネザサ群落	0.601	草地性の動植物の生息（育）環境となっている。主に鳥類の採餌等、爬虫類や昆虫類の繁殖、採餌、休息、避難等の場所として機能していると考えられる。特に草丈が高いことから、隠れ場としての機能が高いと考えられる。
	低茎草地	メヒシバ群落、コセンダングサ群落、コスズメガヤ群落、アシボソ群落、クズ群落、人工草地	0.917	草地性の動植物の生息（育）環境となっている。主に鳥類の採餌等、爬虫類や昆虫類の繁殖、採餌、休息、避難等の場所として機能していると考えられる。
	耕作地	果樹園、畑（畑地雑草群落）	3.849	草地性の動植物の生息（育）環境となっている。人為的な利用状況に応じて環境形成が異なるものの、主に草本類の生育、鳥類や爬虫類、昆虫類の採餌、休息等の場所として機能していると考えられる。
その他	市街地等	植栽地、住宅地、緑の多い住宅地、施設、公園・グラウンド、工場、人工裸地、構造物、道路、鉄道	20.058	動植物の生息（育）環境として機能は低いと考えられる。ただし、植栽樹や草地等は、鳥類や爬虫類、昆虫類の休息や採餌、移動経路等として機能している可能性がある。

(ウ) 法令による基準等

調査範囲の全域は、特定猟具使用禁止区域（銃器）に指定されている。

また、野火止用水とそれに隣接する樹林地が「野火止用水歴史環境保全地域」、玉川上水緑道が「玉川上水歴史環境保全地域」に指定されている。

イ 生態系

(ア) 陸域生態系の状況

a 既存資料調査

(a) 地形・地質

計画地周辺の地形・地質の状況は、「8.5 地盤 8.5.1 現況調査 (3) 調査結果 ア 地盤の状況 (ア) 地形・地質」(p. 108~109 参照) に示したとおりである。

(b) 地下水

計画地周辺の地下水の状況は、「8.5 地盤 8.5.1 現況調査 (3) 調査結果 イ 地下水の状況 (ア) 既存資料調査」(p. 110 参照) に示したとおりである。

b 現地調査

(a) 生態系の機能及び構造

i 環境類型区分

調査範囲の地形や土地利用、植生等を基に調査範囲の環境を類型区分した。類型区分は、表 8.7-7 及び図 8.7-3 に示すとおり、樹林 (4.794ha)、草地 (5.367ha)、市街地 (20.058ha) とした。

表 8.7-7 植物群落区分

環境類型区分	植生・土地利用	面積 (ha)	調査範囲内の割合 (%)
樹林	コナラ群落、ヒノキ植林	4.794	15.86
草地	ススキ群落、アズマネザサ群落、メヒシバ群落、コセンダングサ群落、コスズメガヤ群落、アシボソ群落、クズ群落、人工草地、果樹園、畑 (畑地雑草群落)	5.367	17.76
市街地	植栽地、住宅地、緑の多い住宅地、施設、公園・グラウンド、工場、人工裸地、構造物、道路、鉄道	20.058	66.38